

水墨画連盟便り

第11号
2019年
6月10日

◇はじめに：

展示初日は猛暑となり来場者数が心配されましたが、約330名の来場者が有り、盛況のうちに第31回芸術祭を終えることが出来ました。作品作成、展示・立会い当番・搬出等で皆様のご協力を頂き有難うございます。「水墨画連盟便り第11号」を発行致しますので今後の創作活動の参考として下さい。

◇佐藤理事長からのご挨拶

平成が終わり、令和の時代に入りました。

新時代に入り初めての行事であります。東海村芸術祭「水墨画展」を会員の皆様のご協力のもと開催できましたことは光栄であり、記念すべきことだと思います。中国と違い日本には四季の作品が多く、自然と共に生きる日本人の美意識が有ります。一人一人が楽しみながら個性を輝かせる作品を展示することが出来たと思います。

私達は今回の芸術祭を機に新たに気持ちをリセットし、連盟会員一同知恵を絞って水墨画の興隆に頑張っていきたいと思えます。皆様のご協力を宜しくお願い致します。



2019年5月25日 芸術祭展示を終えて



各会のトピックス



◇墨遊会：

墨遊会では、月2回の練習日を設けています。当日は日頃自宅で描いた作品を持ち寄り、皆で観賞し話し合いをしています。構図、明暗、墨の濃淡等検討しあうことにより、より良い作品が生まれるものと思います。

今回初めて作品展示された方も先輩の意見を反映し、大変よく描かれています。今後もお茶を介しながら皆で楽しく描いていきたいと思っています。



◇東墨会：

新元号「令和」初の水墨画展、新人3人も特別の思い出に残る初出展となった気がします。「令」の文字には神様のお告げの意味もあるそうです。思い描く作品はそれぞれ違っていても、仲間たちと和やかに心を寄せ合うなかで、文化・芸術が育まれると説く「令和」。水墨画を描く私達にも優しい「お告げ」を頂いた気がします。



◇墨彩会：

去る4月7日～4月13日東海St.ギャラリーにて第7回酒湖の会合同展を開催し、多くの方に来場頂きました。有難うございます。

今回は内閣府のbeyond2020事業にも認定され特別展示との合同展示となりました。このあと春の芸術祭、秋の文化祭と続きますが、会員一同楽しく頑張って描いていきたいと思っています。

